

審査・指導に関わる主な要望

- ・近年、指導結果で「概ね良好」とされる歯科医師が1人もいない。指導結果の判定基準を明らかにすること
- ・指導後、診療報酬の自主返還を求めないこと
- ・新規個別指導の結果にもとづく「再指導」は実施しないこと
- ・指導に際して、被指導者の求める帯同者を認めること
- ・集団的個別指導や個別指導(新規含む)は、複数日を予定日とし、(a)日曜日等の休日に実施すること (b)平日の夜間に実施すること
- ・個別指導は、時間を守り、合理的な理由もなく「中断」や「再指導」を行わないこと
- ・当会の会員を対象にした保険講習会に技官を派遣すること
- ・歯科初診料注1に規定する施設基準の研修会「院内感染防止対策」を開催すること

公正な指導求める



11の標準予防策を解説する石濱氏  
11月25日、M&Dホール

生涯講座 標準予防と汚染対策を

歯科の感染防止策を解説

臨床学部部会は11月25日、M&Dホールで「院内感染防止対策」の内容を含む、「エビデンスに基づいた歯科医療における感染防止対策」を解説した。石濱孝二氏(大阪警察病院歯科口腔外科部長)を講師に50人が参加した。

石濱氏は、最初に「院内感染対策とは患者への感染を防ぐこと、職業曝露感染を防ぐこと、社会全体における感染症の蔓延を防ぐことである」と説明。感染症発症の要因は病原体の存在と感染量、感受性の有無、感染経路の存在とし、標準予防策(スタンダード・プリコーション)の重要性を強調した。

2018 大阪府交渉

協会は、近畿厚生局指導監査課と大阪府による個別指導が、行政手続法に基づき、公正で民主的に実施することを前提に、懇切丁寧に行われるよう求めている。

個別指導では「再指導」が半数を超える状況が続いている。「指導結果で『概ね良好』とされる歯科医師が1人もいない。指導結果の判定基準を明らかにする」よう求める。府が主催して、歯科初診料注1に規定する施設基準の研修会「院内感染防止対策」を開催することを求める。

の微生物を滅菌または除去することであると述べた。

歯科における感染対策のポイントとして、特殊性を考慮した標準予防策

署名目標達成へ全力 2万筆集め負担増阻止めざす

協会は1日、第20回理事會を開き、診療報酬改善対策、「みんなでストップ患者負担増」署名などの運動対策、評議員会・総会に向けた準備などについて協議した。

診療報酬では、12月から保険適用される「パーマクラウン」について、

とエアロゾルによる診療環境の汚染対策があると指摘した。11個の標準予防策があり、歯科用ユニットの感染対策、歯科における針刺し事故の特

徴、事故防止、針刺し事故時の感染率と対処法、器具の滅菌と消毒、歯科外来における消毒と滅菌などを話し、質疑応答をして講演を終了した。

署名は1日、第20回理事會を開き、診療報酬改善対策、「みんなでストップ患者負担増」署名などの運動対策、評議員会・総会に向けた準備などについて協議した。

診療報酬では、12月から保険適用される「パーマクラウン」について、

署名は1日、第20回理事會を開き、診療報酬改善対策、「みんなでストップ患者負担増」署名などの運動対策、評議員会・総会に向けた準備などについて協議した。

診療報酬では、12月から保険適用される「パーマクラウン」について、



治療や投薬時の注意点を解説する井上氏=11月23日、M&Dホール

「病気を持った患者の歯科治療」3回シリーズの第1回が11月23日、M&Dホールで開かれ、歯科医師ら100人が感染症や血液疾患、アレルギー疾患、認知症などの特徴や歯科治療で注意すべき点を学んだ。大阪市北

部地区が主催し、医科協会副理事長の井上美佐氏(守口市開業)が講師を務めた。

井上氏は、日常的に出くわす疾患として断然多いのは感染症であると述べた上で、他科の薬と抗生薬の相互作用の特徴を説明。抗生薬が気管支喘息や高血圧、てんかんなどの薬の効果や副作用に影響を及ぼすことから、常用薬のチェックの必要性を説いた。従来

「病気を持った患者の歯科治療」3回シリーズの第1回が11月23日、M&Dホールで開かれ、歯科医師ら100人が感染症や血液疾患、アレルギー疾患、認知症などの特徴や歯科治療で注意すべき点を学んだ。大阪市北

部地区が主催し、医科協会副理事長の井上美佐氏(守口市開業)が講師を務めた。

井上氏は、日常的に出くわす疾患として断然多いのは感染症であると述べた上で、他科の薬と抗生薬の相互作用の特徴を説明。抗生薬が気管支喘息や高血圧、てんかんなどの薬の効果や副作用に影響を及ぼすことから、常用薬のチェックの必要性を説いた。従来

部地区が主催し、医科協会副理事長の井上美佐氏(守口市開業)が講師を務めた。

井上氏は、日常的に出くわす疾患として断然多いのは感染症であると述べた上で、他科の薬と抗生薬の相互作用の特徴を説明。抗生薬が気管支喘息や高血圧、てんかんなどの薬の効果や副作用に影響を及ぼすことから、常用薬のチェックの必要性を説いた。従来



スウェーデン・マルメ大学におけるカリオグラムの講習。講師は、カリオグラムを使った研究を最初に行ったグンネル・ペターソン先生

「病気を持った患者の歯科治療」3回シリーズの第1回が11月23日、M&Dホールで開かれ、歯科医師ら100人が感染症や血液疾患、アレルギー疾患、認知症などの特徴や歯科治療で注意すべき点を学んだ。大阪市北

部地区が主催し、医科協会副理事長の井上美佐氏(守口市開業)が講師を務めた。

井上氏は、日常的に出くわす疾患として断然多いのは感染症であると述べた上で、他科の薬と抗生薬の相互作用の特徴を説明。抗生薬が気管支喘息や高血圧、てんかんなどの薬の効果や副作用に影響を及ぼすことから、常用薬のチェックの必要性を説いた。従来

部地区が主催し、医科協会副理事長の井上美佐氏(守口市開業)が講師を務めた。

井上氏は、日常的に出くわす疾患として断然多いのは感染症であると述べた上で、他科の薬と抗生薬の相互作用の特徴を説明。抗生薬が気管支喘息や高血圧、てんかんなどの薬の効果や副作用に影響を及ぼすことから、常用薬のチェックの必要性を説いた。従来

北欧の療最前線 part.2

リスク評価ツールは、コンピューターを一般の人が普通に持つようになった1990年代以降、複雑な思考過程を、より客観的に、より速く、より簡単に行うために、情報技術を利用したものが登場している。その開発は、齶触の方が、歯周病より一歩先んじ、牽引したのはカリオグラムだった。これは、前向き研究により、その妥当性を評価された唯一のカリオリスク評価ツールである「1」。

「最先端のむし歯・歯周病 予防を要求する会」理事長 西 真紀子

ト調査の結果や過去の文献からカリオリスク因子の重み付けや連携のアルゴリズムを決定して、ブラッター教授の学生時代のインストラクターであったラース・アーランダー先生がプログラムングを行い、カリオグラムが誕生した。

無料で入手可能

カリオグラムは11の言語で入手でき、前号の図で示したように日本語版もある。日本語版のマニュアルは、(株)オーラルケアのウェブサイトで無料でダウンロードできる (<http://dentocult.jp/tools/cariogram.html>)。カリオグラムは、齶触に関する10のパラメータを入力するようになっているが、そのうちの7つを入力すると、自動的に円グラフがスクリーン上に登場する。円グラフは、その人のカリオリスク像を示してくれる。青(食事因子)、赤(細菌因子)、水色(唾液とフッ化物の因子)、黄(過去の齶触経験や全身疾患の因子)がそれぞれのリスクセクターの大きさを表し、それらを100から引いた緑のセクターの大きさが大きい程、リスクが低いことを意味する(前号の図を参照)。読者の皆様も、一度、試してみたいいただきたい。